

キャリア甲子園で 探究学習の場をつくろう

“何か”を始めたい先生のためのキャリア教育 虎の巻



“キャリア甲子園”とは、
高校生がチームを組んで企業からのテーマに挑戦する
ビジネスアイデアコンテストです。

<http://careerkoshien.mycampus.jp>

2017年7月発行
株式会社マイナビ 地域活性事業部 キャリア甲子園運営事務局
(企画・制作:一般社団法人キャリア教育コーディネーターネットワーク協議会)

キャリア甲子園でつくる“未来のジブン”

「キャリア甲子園」は、 未来のジブンをつくる「挑戦」と「発見」の場。

ビジネスプランコンペが、なぜキャリア教育になるのか？
リアルな社会課題の解決に取り組む過程での「発見」がたくさんあるのです。

「挑戦することで見えてくる、自分の可能性。」

「どうせ自分は」とあきらめるよりも、挑戦してみること。
やったことのないことに挑戦してみること、
「できること・得意なこと」「できないこと・苦手なこと」という、知らない自分に出会うことにもつながります。

「様々な視点から見て、考える力。」

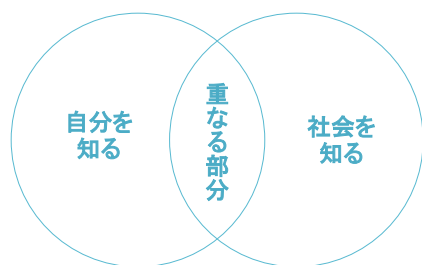
企業からの評価やプレゼンテーションの場があることで、ひとりよがりでない、いろいろな視点から考える必要が出てきます。論理的に考え、相手に伝える力を磨くことができます。

「自分ごととしてアイデアを考え抜く。」

カッコいいアイデアを考えるのではなく、社会課題に対して、「自分だったら本当にどうするのか」と徹底的に向き合うこと。社会課題を「自分ごと」としてとらえることができるようになります。



キャリア甲子園を活用したキャリア教育への展開 ～大学入試をゴールにしないキャリア形成へ～

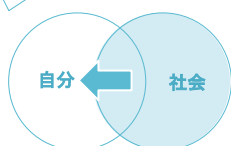


ひとりひとりの人生を切り拓いていくことは、「自分を知ること」と「社会を知ること」の繰り返し。
これは、子どもたちだけでなく、大人になっても、生涯を通じて必要なことです。
「自分」と「社会」が重なる部分が、将来の「職業」や「生き方」となり、「大学での学び」は、その「通過点」にあるもの。大学入試をゴールにせず、生涯を通じて自身の人生を切り拓く力を身につけるために、学校は、**学び続ける「探究の仕方」のトレーニングの場**でもあります。
探究的な学習は、ひとりひとりのキャリア形成にもつながるのです。

キャリア甲子園を
活動のスタートに！

-----> 学校独自の総合的な学習の時間や進路指導と組み合わせて3年間のカリキュラムへ。

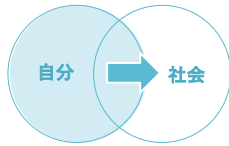
STEP1



**キャリア甲子園に挑戦！
企業からのテーマをもとに
社会課題の探究手法を学ぶ。**

大会テーマは、「MY REVOLUTION!!」
社会課題の解決に取り組みながら、
「自分だったらどうするのか？」にも
アプローチします。

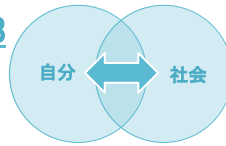
STEP2



**自分の興味・関心をもとに
課題研究・探究活動や
インターンシップへ。**

キャリア甲子園では企業からテーマが
与えられていましたが、次のステップ
では、自分の興味・関心を基点とした
研究やインターンシップなどに発展。

STEP3



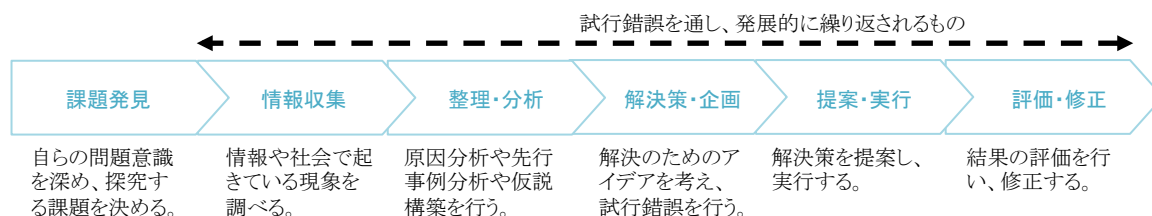
**自分の興味・関心
× 社会課題・地域課題で
自身の進路を見極める。**

なぜ進学するのか、何を学ぶのか、
志望理由書やプレゼンテーション
などの個別試験の対策へ。

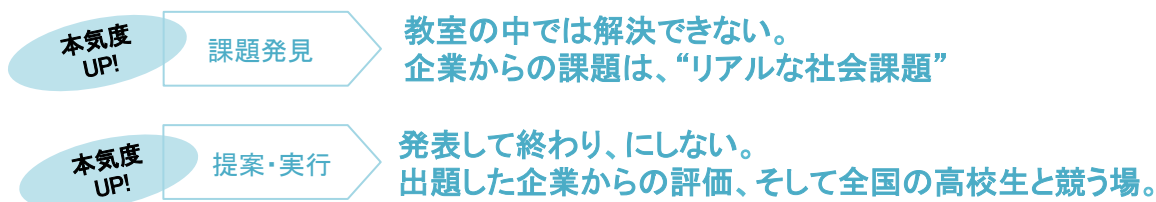
“リアルな社会課題”と“競う場”だから、 本気で取り組むことができる探究的な学習。

探究的な学習には、以下のような基本ステップがあります。

探究的な学習の基本ステップ



「キャリア甲子園」では、以下のようなポイントで「本気度」を高めることができます。

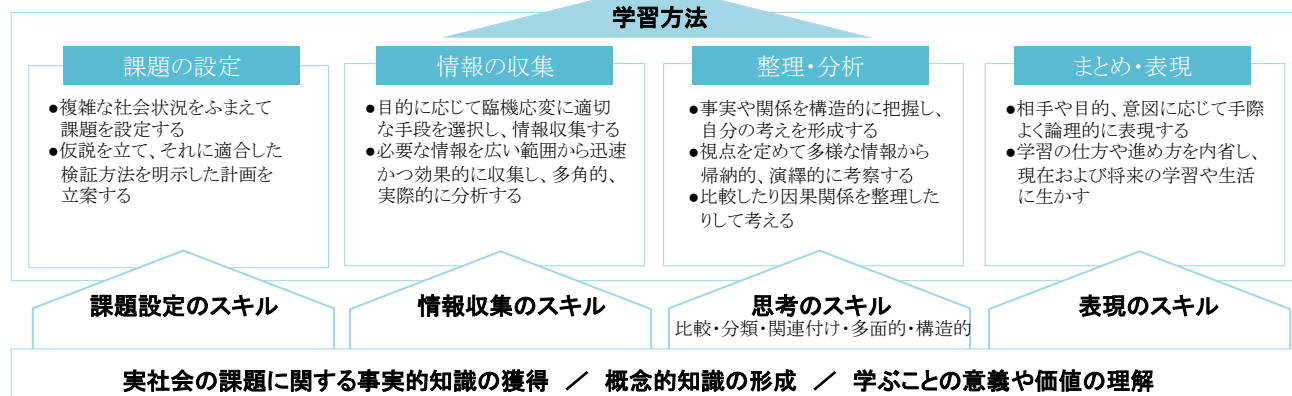
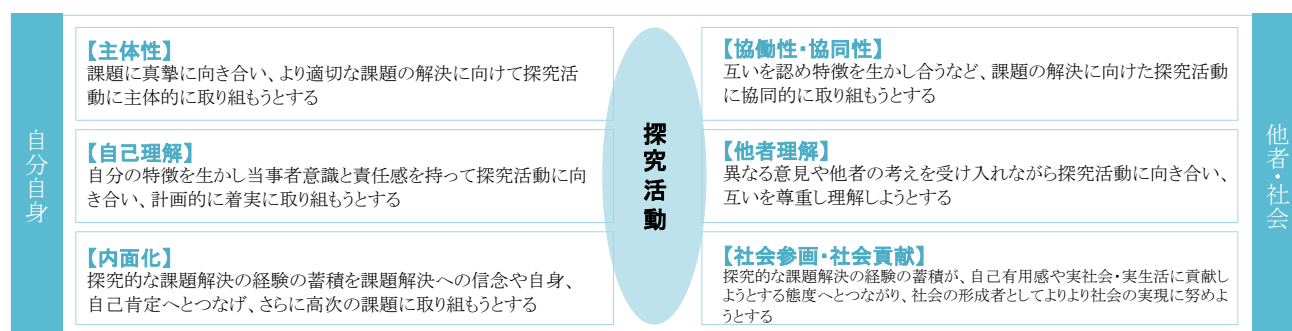


新学習指導要領は、 「探究的な学習の時間」へ。

次期学習指導要領の方向性の中で、「総合的な学習の時間」について下記のようなイメージが提示されています。探究活動・探究的な学習は、次期学習指導要領のポイントとも言える「主体的・対話的で深い学び」を実現する重要な学習手法になると言えます。

総合的な学習の時間の学びの過程のイメージ(高等学校)

(平成28年12月中央教育審議会答申「幼稚園、小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校の学習指導要領等の改善及び必要な方策等について」別添資料より再構成)



キャリア甲子園をゴールとした探究活動とは？

活動全体を通して身につける力

キャリア甲子園をゴールとした探究活動を通して、以下のような力を身につけることが期待できます。

情報収集スキル

情報収集の適切かつ効果的な手段を身につけること。多角的な視点から情報収集をすること。

思考スキル

原因分析などの論理的な思考力と課題解決のためのアイデアの発想を身につけること。

表現スキル

相手の立場に立ちながら、わかりやすく論理的に説得力を持った表現方法を身につけること。

カリキュラムの構築のヒント

キャリア甲子園への応募に向けて、以下のようなカリキュラムでの授業が考えられます。授業に使える時間やその他の授業との兼ね合い、生徒の状況に合わせ、カリキュラムをアレンジすることをおすすめします。

専用講座とは？

MBAスクールで有名なBBT大学が提供する動画コンテンツ。キャリア甲子園にプレエントリーすると利用できます。※詳細は14pへ。

フェイズ

情報収集 4p	企業からのテーマに関する情報を、様々な角度から収集することを通して、目的に応じた情報収集の手段を学びます。 学習活動 ●取り組むテーマを決めよう ●テーマに関する情報収集をしよう ●解決課題を設定しよう	●所要時間(目安)● 4～5コマ	専用講座 アリ
課題分析 5p	アイデアを考える前に、解決策の方向性を探るフェイズ。原因分析と先行事例研究から、論理的な思考スキルを身につけます。 学習活動 ●原因分析をしよう ●先行事例を研究しよう	●所要時間(目安)● 2～4コマ	専用講座 アリ
仮説構築 6p	具体的な解決策・アイデアを考えるフェイズ。様々な角度からの発想力を身につけていきます。 学習活動 ●アイデアを考える練習をしよう ●解決のアイデアを考えよう	●所要時間(目安)● 2～4コマ	専用講座 アリ
検証 7p	考えたアイデアの説得力を作るフェイズ。本当に実現できるのかを検証を通して、仮説構築と検証を繰り返します。 学習活動 ●【検証1】サプライチェーンを考えよう ●【検証2】マーケティングリサーチをしよう	●所要時間(目安)● 2～4コマ	
アウトプット 8p	アイデアをわかりやすく説得力を持って伝える準備をするフェイズ。相手の立場に立った表現力を磨いていきます。 学習活動 ●企画書をつくろう ●プレゼンテーションをしよう	●所要時間(目安)● 4～6コマ	専用講座 アリ

キャリア甲子園へ応募！※具体的な応募方法については、13pへ。

次ページからは各フェイズの学習活動についてご紹介します。以下のような項目で構成されています。

- 到達目標 … このフェイズでどこまで到達するかゴールイメージ。
- 学習活動 … 目安として1～2コマの授業のテーマに相当するもの。
- 生徒への問いかけ … 授業の中での具体的な生徒への問いかけ(発問)。生徒の思考のナビゲーション。

■ 情報収集フェイズ ■

到達目標

まずは、どの企業のテーマに取り組むかを決めるところからスタートします。取り組むテーマを決めたら、テーマに関する情報収集。やみくもにテーマに対してのアイデアを出すのではなく、「困っている人は誰か」「どのように困っているか」など、解決すべき課題は何かを特定していき、自分たちは誰のためにアイデアを考えるのか、アイデアを出すための方向性を絞っていくことがここでのゴールになります。

学習活動① 取り組むテーマを決めよう

キャリア甲子園では複数の企業からテーマが出されます。自分ごととしてコミットできるテーマを選ぶことから始めます。

問いかけ① 興味・関心のあるテーマや「気になる言葉」はどれだろう？

「過去の経験」「好きなもの・好きな言葉」「自分の夢や志」に関するテーマはあるだろうか？

学習活動② テーマに関する情報を収集しよう

企業からのテーマは、まだ少し漠然としたものになっているかもしれません。いろいろな角度からテーマに関する情報を収集し、そこで起きている事象や問題を把握します。

問いかけ① テーマを「分解」してみよう

企業からのテーマに含まれる「単語」を抽出してみる。

例) 世界の食糧危機に対して日本の農業ができること
(単語①) (単語②)

専用講座

- 協賛企業講座

問いかけ② どんなことがニュースになっているだろうか？

抽出した単語について、社会ではどんなことがニュースになっているか、インターネット等で検索してみる。
インターネットでは、論文・報告書、統計資料などの検索も可能。
「情報」と「意見」や「記事広告」の区別をしながら、できる限り、信頼性の高い情報を集めるようにする。

ツールやヒントとなるもの

- インターネットで項目を検索する。
- 図書館で関連分野の書棚を見る。

学習活動③ 解決課題を設定しよう ～誰の「困った！」を解決するの？～

テーマに関して起きている事象・問題の中から、具体的に誰の・どのような課題を解決するのかを特定します。

問いかけ① 誰が・どのように困っているのだろうか？

テーマまたはテーマに関する単語について見えてきた「ニュース」について詳しく分析していき、具体的に「誰が」「どのように」困っているのかを明確にする。

情報を整理するヒント

- 情報をグラフや表にして比較してみる。
- ペン図で整理する。

問いかけ② 自分は誰の「困ったこと」を解決したいのだろうか？

「困っていること」がいろいろ出てきたかもしれないが、その中で自分が本気で課題解決に取り組みたいと思うものを選ぶ。

■課題分析フェイズ■

到達目標

自分たちは誰のためにアイデアを考えるのかを決めたら、次に、「困ったこと」が起きている原因を分析していきます。ここでの到達目標は大きく2つ。一つは、具体的に何を解決するのか「原因」を特定していること。もう一つは、先行事例を研究することで、より役立つ、「自分たちならではのアイデア」のヒントを見つけることです。

学習活動① 原因分析をしよう

解決することにした「困ったこと」がなぜ起きているのか、論理的に分析し、本質的な原因を特定していきます。

問いかけ① 困ったことが起きているのはなぜだろうか？

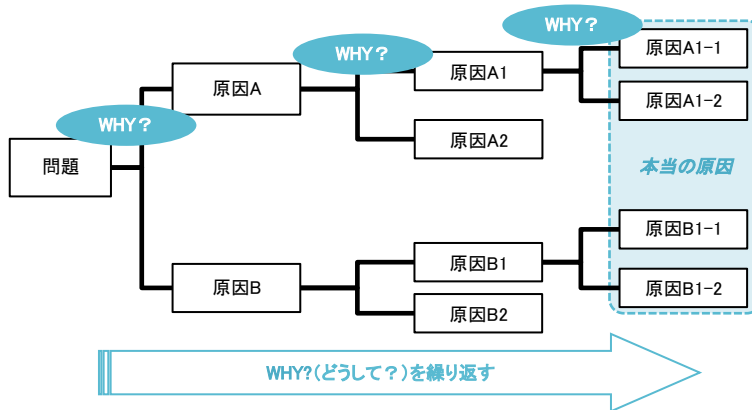
ロジックツリーなどの手法を使い、「なぜか？」を掘り下げる。

専用講座

- ロジカルシンキング講座

ロジックツリーとは？

起きている「困ったこと」について、「なぜそれが起きているのだろう」という「WHY？」を繰り返して掘り下げる分析方法です。



学習活動② 先行事例を研究しよう

「困ったこと」の解決に、すでに着手している先行事例について情報を収集することで、本当に解決すべきポイントはどこなのかを見極めていきます。

問いかけ① すでに課題解決に取り組んでいる人はいるだろうか？

似たような問題意識の取り組み事例を探してみる。

ツールやヒントとなるもの

- インターネットで統計データや論文を探す。
- 図書館で関連分野の書籍・論文を探す。

問いかけ② すでに取り組んでいるとしたら、その成果と課題とは？

すでに取り組んでいる事例があるとしたら、その成果(できていること)と、課題(まだできていないこと・うまくいっていないこと)を知ること、まだ解決できていないことや求められることは何かを知る。

整理・分析の仕方

先行事例を以下のような視点で分析することで、特徴をつかむことができます。いずれも下記のような表に整理するとわかりやすくなります。

- ① メリット・デメリットの視点
- ② 強み・弱みの視点

メリット	デメリット

■ 仮説構築フェイズ ■

到達目標

課題解決のための方策の仮説として、アイデアを考えるフェイズです。
 ここでの到達目標は、まずは、先入観にとらわれずいろいろなアイデアをたくさん出すことで、可能性を広げること。
 もうひとつは、たくさん出したアイデアを整理・収束させ、よりよい課題解決ができる仮説に絞り込んでいくことです。

学習活動① アイデアを考える練習をしよう

アイデアの発想法を練習しながら、仮説構築のためのアイデアをなるべく多く出すことをやってみます。
 まずは、生徒が考えやすい、身近なテーマで練習してみるといいでしょう。

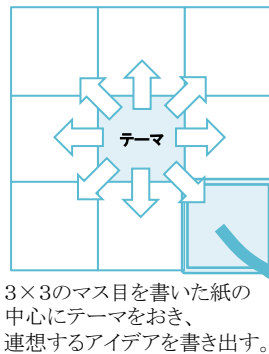
例) 文化祭の企画をたくさん考える
 学食のメニューをたくさん考える

アイデア発想法

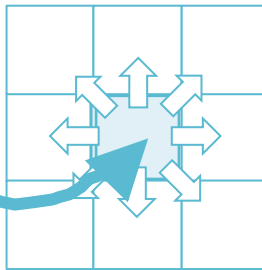
①ブレインストーミング
 4つのルールに従ってアイデアを出す。

批判厳禁	合言葉は「それいいね」。出てきたものを評価しない。
自由奔放	制約ナシでとにかく自由に考えよう。
質より量	たくさん出せばその中に光るものがあるかも。
便乗歓迎	くっつけたり相乗りすることで新しいものが生まれる。

②マンダラート



マス目の紙を8枚用意する。
 出てきたひとつひとつのアイデアをもとに、さらに広げて発想する。



専用講座

●ビジネスの考え方

学習活動② 解決のアイデアを考えよう

アイデアを発散させる(より多く出す)ことと、収束させる(課題解決に方向にあわせて取捨選択する)ことを繰り返し、仮説の精度を高めていきます。

問いかけ①

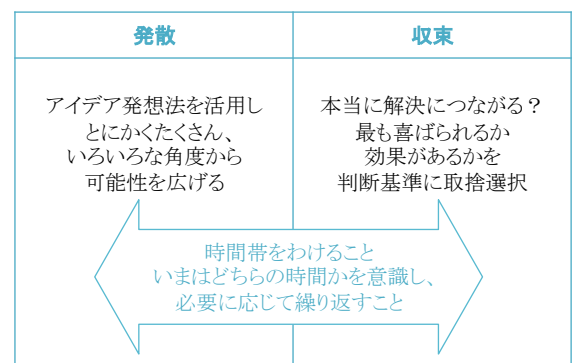
まずはアイデアをたくさん出してみよう(発散させる)

まずは制約条件なしで、いろいろな方向から考えてみる。
 最初から制約条件つきで考えると、アイデアの幅がせまくなる。

問いかけ②

アイデアをまとめよう(収束させる)

アイデアをたくさん出したら、取捨選択の時間。
 判断基準は「最も喜ばれる・効果があるアイデアだろうか？」



■ 検証フェイズ ■

到達目標

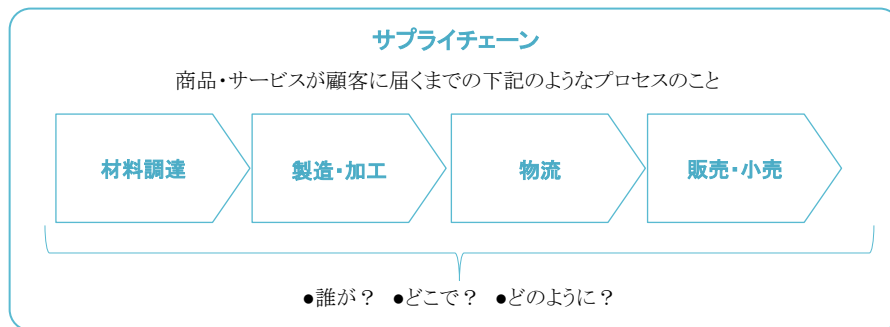
前のフェイズで考えたアイデアに説得力を持たせるフェイズ。考えた「仮説」の検証を行います。ひとつは、アイデアの実現性を検証すること。具体的に誰が・どのように実現・提供できるのかを整理します。もうひとつは、その課題が本当に解決されるのか、実際に困っている人に意見を聞いたり調べたりして、確認をしていきます。

学習活動① 【検証1】サプライチェーンを考えよう

仮説として考えたアイデアの検証のひとつとして、具体的にどのように実現・提供できるのかビジネスの仕組みを活用しながら考えてみます。

問いかけ① 実現するためにどのような手順が必要だろうか？

考えたアイデアを実現するために、「誰が」「どのように」役割を担うのか、商品・サービスを提供するプロセスに従って考えてみる。



学習活動② 【検証2】マーケティングリサーチをしよう

仮説検証のふたつめは、実際に困っている人にとって嬉しい解決アイデアになっているかどうか、具体的に意見を聞いたり、データを探してみます。

問いかけ① それは本当に「欲しい」と思えるだろうか？

考えたアイデアを独りよがりなものにせず、多くの人、特に実際に困っているであろう人の意見を聞いてみる。

調査方法の種類と特徴

アンケート調査	インタビュー調査	フリップボードで情報収集
【特徴】 多くの人の意見を集めて、その傾向を知りたいときに行います。 【ポイント】 ●アンケート調査の目的や対象者を明確にしておく。 ●調査用紙の作成にあたっては、短時間で回答できるよう、質問項目を精査する。 ●単純な質問から意見を問う質問へ移っていくよう、答えやすさを考慮する。	【特徴】 アンケートだけでは把握できない、傾向の背景や理由を明らかにするときにを行います。 【ポイント】 ●何を知るためにインタビューするのか、その目的を説明できるようにしておく。 ●質問する内容を事前に整理しておく。 ●インタビューする相手の名前や訪問先の確認、訪問日時をしっかりと確認する。 ●インタビュー後のお礼も忘れずに。	【特徴】 フリップボードを提示することでアンケート調査よりも、さらに回答しやすい形式で調査を行うことができます。 【ポイント】 ●フリップボードで提示する「聞きたいこと」は、二択など、答えやすい質問を用意する。 ●回答者にはシールを貼ってもらうなど、集計しやすい方法を考える。

参考文献「今、求められる力を高める総合的な学習の時間の展開 高等学校編」(平成25年7月／文部科学省)

■アウトプットフェイズ■

到達目標

どんなにいいアイデアでも、伝わらなければ実現できません。検討してきた解決のアイデアを、わかりやすく伝えるフェイズです。キャリア甲子園の場合なら審査員など、「誰に伝えるようにするのか」、具体的な相手を想定し、相手の立場や心情・理解状況などを考慮しながら、論理的で説得力のある伝え方を工夫していきます。

学習活動① 企画書をつくろう

読む相手のことを考えながら、論理的に説明していく流れを組み立て、企画書に表現します。

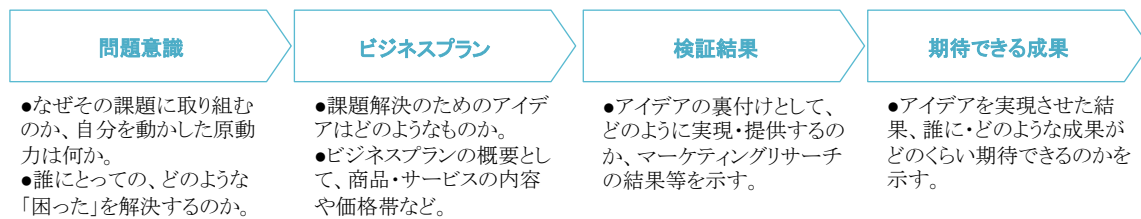
問いかけ① どんな順番で説明したら説得力が生まれるだろうか？

ただの思いつきではなく、根拠を示す企画書の構成を考える。

専用講座

- 企画書の書き方講座

企画書の構成の例



学習活動② プレゼンテーションをしよう

相手にわかりやすく、かつ、心に訴えかけるプレゼンテーションを工夫して考えます。

問いかけ① 相手の心を動かすためにはどうしたらいいだろうか？

相手の立場に立ってプレゼンテーションを組み立てる。

専用講座

- プレゼンテーション講座

プレゼンテーションのポイント

- メッセージは簡潔で明確に。
- メッセージを裏づける根拠で説得力を高める。
- 想いや熱意を込める。

問いかけ② 審査基準に則って評価したら、どうなるだろうか？

キャリア甲子園の審査基準を使いながら、客観的に評価をしてみる。

プレゼンテーションのブラッシュアップ

- クラスの中で発表し、相互評価を行う。
- 社会人を相手にプレゼンし、評価をもらう。
- ビデオに撮影し、自分自身でチェックする。

指導計画(カリキュラム)をつくろう

教育目標をつくる

～生徒の現状の課題とめざす姿を描こう～

いちばん大切なのは、先生の願いです。生徒にどんな力を身につけてほしいと思っていますか？どんな体験をしてほしいですか？まずは「制約条件一切ナシ！」で、自由に考えてみるところから、はじめてみましょう。

生徒にこうなってほしい！こんな力を身につけてほしい！

「こんな授業をやってみたい！」「こんな体験をさせたい！」



キャリア甲子園を活用したカリキュラムで目指したいことは？ = 教育目標

制約条件を確認しておく

～「できることから」はじめる～

やりたいことをいろいろ出してみたら、次に「制約条件」も整理しておきましょう。制約条件があるから「やらない」のではなく、「できるところから始めるにはどうしたらいいか」を考えるための材料になります。

使える時間は？	
場所は？	
機材は？	
予算は？	
誰がやる？	
その他	

指導計画(カリキュラム)を組み立てよう ～フォーマットの使い方～

教育目標に向かって、どんな授業を組み立てようか・・・？3-8pを活用しながら、考えてみましょう。
(フォーマットには目安として「フェイズ」「学習活動」を記入してあります。)

教育目標を再整理する！

9pでメモした教育目標を、ここでもう一度整理。
他の先生にもわかりやすく伝えるようにしておきましょう。

授業の計画を立てる

使える時間や場所の制約条件も視野に入れながら、
どんな学習・活動を何コマで実施するのか、
その時に必要な教材や資材は何かを整理しておきましょう。

単元全体の教育目標

	学習活動	具体的な授業の内容・生徒の活動	コマ数	教材・資材	評価基準	評価Aレベル	評価Bレベル	評価Cレベル	
情報収集	取り組むテーマを決める								情報収集
	テーマに関する情報を収集する								
	解決課題を設定する								
課題分析	原因分析をする								課題分析
	先行事例を研究する								
	アイデアを考える練習をする								

カリキュラム マネジメントも！

評価についてもあらかじめ考えておこう！

今回の指導計画(カリキュラム)フォーマットでは、あらかじめ評価基準や評価のレベル(ルーブリック)を記入できる欄を作りました。

探究的な学習活動では、知識・スキルといったテストで測れる成果だけでなく、「なにができるようになったか」という状態・行動・パフォーマンスで評価を行う必要があります。各学習活動は「パフォーマンス課題」であるとも言えます。そこで、どのような行動を期待するのか、具体的に定性的なサンプルを指標として洗い出しておきます。

ルーブリックのメリット

- 生徒にとっての目標が明確になる。
- 授業の到達目標を教員や関係者で共有できる。
共通言語で語ることができるようになる。
- 授業の到達状況を把握することで、
次の授業へのリカバリー策が検討できる。

【ルーブリック作成例】

学習活動	評価基準	評価Aレベル	評価Bレベル	評価Cレベル
誰の「困った」を解決するのか、解決課題の設定を行う。	テーマに関して起きている様々な事象・問題の中から、具体的に解決すべき課題を特定できている。	自分たちは「誰の」「どんな」困ったことを解決するのか、「解決すべき課題」が明確にできている。	テーマに関して起きている事象・問題に取り組もうとしているが、「誰の」または「どんな」困ったことかまで特定できていない。	テーマに関して起きている事象・問題が把握できていない。

指導計画(カリキュラム)フォーマット

単元全体の教育目標

	学習活動	具体的な授業の内容・生徒の活動	コマ数	教材・資材
情報収集	取り組むテーマを決める			
	テーマに関する情報を収集する			
	解決課題を設定する			
課題分析	原因分析をする			
	先行事例を研究する			
仮説構築	アイデアを考える練習をする			
	アイデアを考える			
検証	【検証1】			
	【検証2】			
アウトプット	企画書をつくる			
	プレゼンテーションを行う			

評価基準	評価Aレベル	評価Bレベル	評価Cレベル	
				情報収集
				課題分析
				仮説構築
				検証
				アウトプット

キャリア甲子園へのエントリーについて

詳しくは→<http://careerkoshien.mycampus.jp/2017schedule/>

応募資格

チーム(4人まで)でのエントリーになります。

- ・2018年3月1日(木)時点で、高等学校(高等専門学校含む)に在学中の方。
- ・大学・短期大学・専門学校等の高等教育機関へ進学を希望されている方。
- ・キャリア甲子園2017準決勝大会&決勝大会に参加可能な方。
- ・キャリア甲子園出場資格に関わる書類審査用課題を提出できる方。
- ・インターネットや紙媒体などのメディアに顔や高校名の露出に同意できる方。
- ・学校申込の場合、申込書の内容に同意できる方。
- ・個人申込の場合、MY FUTURE CAMPUSの会員登録に同意できる方。

スケジュール

プレエントリー

2017年7月3日(月)～2017年11月30日(木)18:00

キャリア甲子園参加には、プレエントリーが個人単位で必要です。プレエントリーが完了すると、企業のテーマ解説動画やビジネススキル講座が無料で受講可能になります。

本エントリー 企業テーマ公開

2017年9月1日(金)

チームを結成した上で正式にエントリーすることを指します。

書類審査応募締切

2017年12月15日(金)18:00

応募する企業テーマの企画書をまとめていただき、事務局に提出いただきます。
(書式は後日公開)
なお、応募できるテーマは1つです。複数のテーマに応募することはできません。

プレゼン動画審査 応募締切

2018年1月12日(金)18:00

プレゼンテーションを10分以内の動画に納め、事務局までご提出ください。
(動画の仕様については後日公開)

準決勝大会

2018年2月18日(日)

ここまで勝ち上がった高校生チームが企業に直接プレゼンし、企業代表チームを決定します。
プレゼン時間は1チーム10分、会場は東京都内を予定しています。
(詳細は後日公開)

決勝大会

2018年3月18日(日)

企業代表チームがプレゼンし、総合優勝チームを決定します。
決勝戦の様子はインターネット生中継を行います。
総合優勝チームには100万円分の海外旅行券をプレゼントします。
プレゼン時間は1チーム10分、会場は東京都内を予定しています。
(詳細は後日公開)

お問い合わせ(平日10:00-17:30)
〒160-0022 東京都新宿区新宿4-1-6 新宿ミライナタワー26階
株式会社マイナビ 地域活性事業部 キャリア甲子園運営事務局
TEL:03-6628-5061 FAX:03-3358-7046

オプションサポートメニュー

カリキュラムをより良いものにするために、また、先生の「やりたい！」を実現するためのサポートメニューです。

専用講座

MBAスクールで有名なBBT大学が提供する動画コンテンツ。キャリア甲子園にプレエントリーすると利用できます。(2017年8月から公開)

講座名	内容	活用の仕方
ビジネスの考え方	そもそもビジネスって何なのか？ ビジネスプランはどのように成り立っているのか、どのようにアイデアは生まれるのか、そのプロセスを学ぶことができます。	仮説構築フェイズ 解決のアイデアを考える前に。
ロジカルシンキング講座	課題解決のために必要な論理的思考力に関する講座。 現状の分析や解決策の立案など、課題解決の進め方のそれぞれのステップについて、そこでの考え方やフレームワークを学ぶことができます。	課題分析フェイズ 原因分析の前に。
企画書の書き方講座	ビジネス文書と学校の作文は何が違うのか？わかりやすく、かつ、説得力のある論展開ができるようにするための企画書の書き方の基本を学ぶことができます。	アウトプットフェイズ 企画書を書く前に。
プレゼンテーション講座	自分をよりよく見せ、相手に伝えるための、見た目や話し方から、プレゼンテーションの組み立て方、どのように相手にアピールするか工夫について学ぶことができます。	アウトプットフェイズ プレゼンテーションを考える前に
協賛企業講座	協賛企業各社からの説明。 企業についての情報やテーマについての情報を得ることができます。	情報収集・課題分析フェイズ テーマに関する情報収集を行う。

外部人材コーディネート

有料

教員だけではできない部分のサポートです。
出前授業形式で、カリキュラムに合わせた授業・講師をご紹介します。

※費用は1回の授業あたり60,000円(税込・講師謝金含む)～
(クラス数、人数規模、地域によって変動する可能性があります。)

外部人材の活用例

- 社会課題についての情報収集のインタビューを行う
- 企画の立て方やビジネスについての講義を受ける
- 中間プレゼンテーションへの評価・アドバイスをもらう

カリキュラム構築サポート

有料

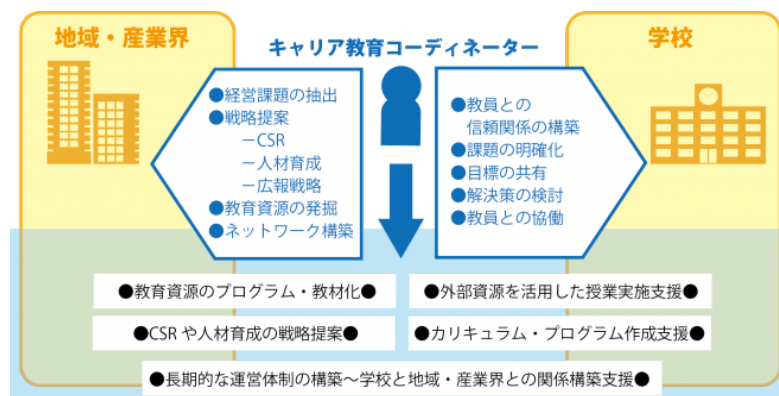
認定キャリア教育コーディネーターが、カリキュラム構築をお手伝いします。キャリア教育コーディネーターとは、学校と地域・産業界をつなぐ存在。実社会のリソースを活かしたカリキュラム構築や授業づくり、実施運営支援を行なっています。

※費用は250,000円(税込・講師除く)～

※有料サポートは、キャリア教育コーディネーターネットワーク協議会が
お手伝いします。

<キャリア教育コーディネーターって？>

<http://www.human-edu.jp>

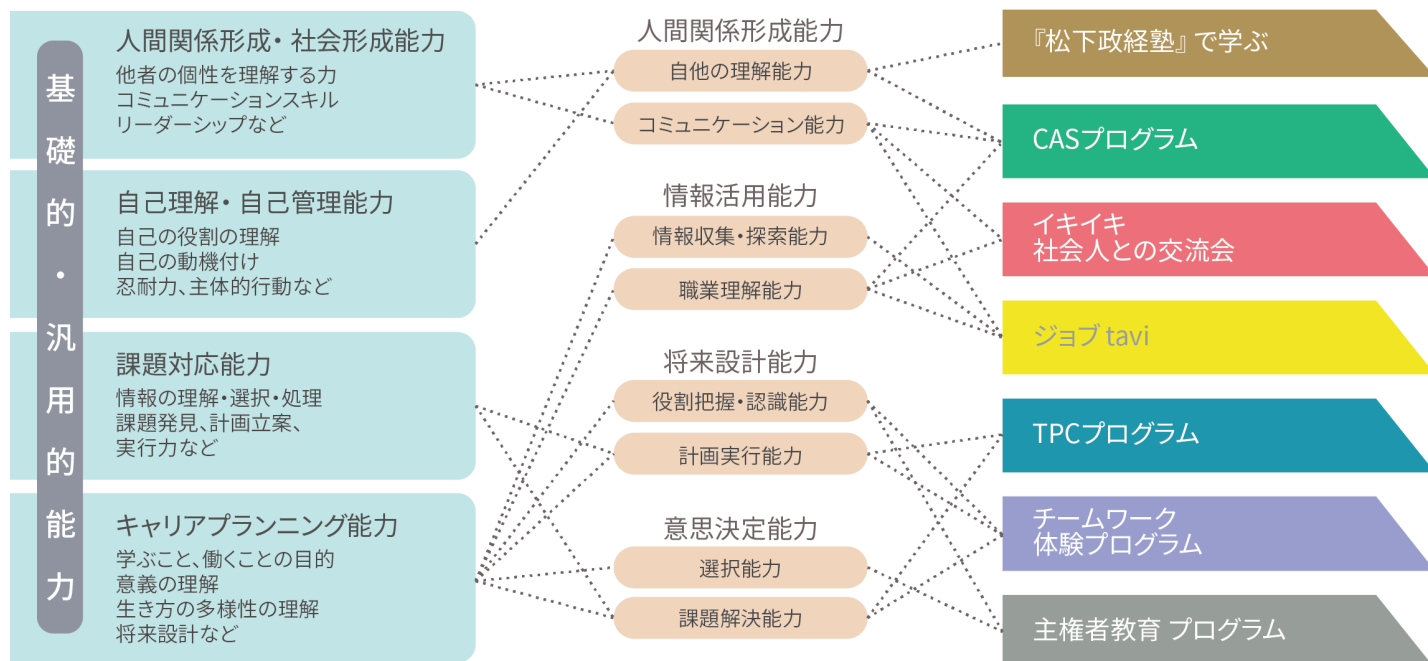


お問い合わせ(平日10:00-17:30)
〒160-0022 東京都新宿区新宿4-1-6
新宿ミライナタワー26階
株式会社マイナビ 地域活性化事業部
キャリア甲子園運営事務局
TEL:03-6628-5061 FAX:03-3358-7046

生徒 × 第三の大人 ＝ 未来を創るチカラ



JTBがお届けするキャリア教育プログラム
基礎的・汎用的能力からみる、おすすめは？



プログラム実施条件について

	概要	実施場所	実施可能人数
『松下政経塾』で学ぶ	次世代のリーダー育成プログラム	松下政経塾 (神奈川県茅ヶ崎市)	40名～60名
CASプログラム	コミュニケーションをはかりながら キャリアの軸を考える	学校、または研修施設	基本的に学年単位 (応相談)
イキイキ 社会人との交流会	第三の大人から将来のヒントを！	東京近郊のホテル、 または研修施設	100名～200名 (小人数は別途相談)
ジョブ tavi	普段会わない大人に会って 将来について考えるきっかけをつくる	要相談 (東京、神奈川、埼玉、千葉)	160名～ (基本的に学年単位)
TPCプログラム	他人と協働して 問題解決を考える	学校、または研修施設	40名～300名 (基本的に学年単位)
チームワーク 体験プログラム	グループ＝集団 チーム＝「目的を達成するため」の集団	学校、または研修施設	40名～300名 (基本的に学年単位)
主権者教育 プログラム	普段過ごしている学校生活から 「政治」を考えよう	学校、または研修施設	40名～ (基本的に学年単位)

※各プログラム、ご要望によりアレンジいたします。